



記入日	西暦 2020 年 1 月 7 日 (2019 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	京都市立正親小学校
実践番号 (団体内・年度内の通し番号)	④
タイトル 内容を端的に示し、中身を見たくなるタイトルをつけてください。計画時のタイトルと同じである必要はありません	守るぞ正親のまち ぼくらジュニア防災隊 もしも大災害が起こったら、ぼくは生きる、みんなを守る ステージ④「みんなの命を守るため、自分たちにできることを実践しよう」 ステージ⑤「守れ、正親 ジュニア防災隊 発進
実践担当者のお名前	辻元 博子 葉武 佐加恵

実践にかかった金額	10000 円
実践の準備にかかった時間	10 時間
実践活動を実施した日時	西暦 2019 年 12 月～西暦 2020 年 2 月
実践の所要時間	13 時間
実践の運営側で動いた人の人数	40 人
防災教育の対象者の属性	幼児・小学生全学年・保護者・地域住人
防災教育の対象者の人数	約 100 人
実践を行った都道府県と市区町村	京都府 京都市
実践を行った具体的な場所	京都市立正親小学校 教室・校庭・グラウンド・体育館・地域路地その他
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	

達成目標 社会的・地域的・時代的背景や実践の目的や何を達成しようとしたかを書いてください	今まで学んで考えたこと、伝えなければならなかったことを低学年・地域の住人・お年寄り・保護者などいろいろな人に伝える。	
どの力を身につけようとしていましたか？ <u>該当しないものを削除し該当するものを 1 つ残す</u>	知識・技能	大いに
	思考力・判断力・表現力	大いに
	学びに向かう力・人間性	大いに



実践内容・方法

これを読んだ人が同様の活動を行えるように具体的に詳しく書いてください
適宜写真や図表等を入れていただいて構いません

防災について考えたことを低学年や地域の人・保護者に伝えよう。

○防災フェスタをしよう。(低学年に)・お年寄りに・保護者に)

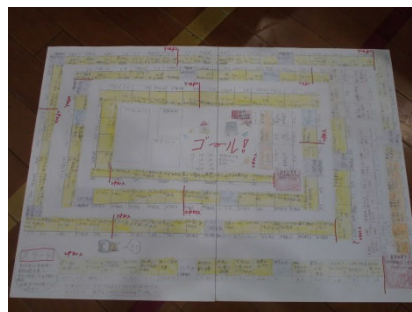
地震が起こったら…「まずは自分で自分の命を守らなければならないこと、そして助かったら、次は自分が他の人を守る。そのために必要なこと、できることは…」とまずは焦点を低学年において、伝えたい内容を考え、それが一番伝わる方法をグループで話し合った。社会参画の場面である。

カルタで

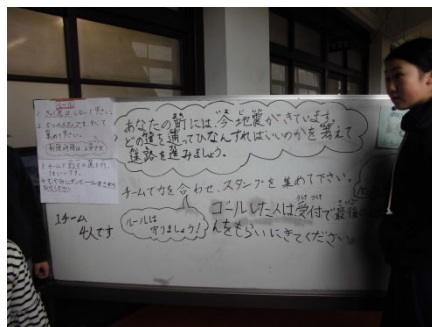


「カルタをするだけでは分かったかどうかかわからないので、クイズもした方がいい。」など前向きな意見が聞かれた。

すごろくで

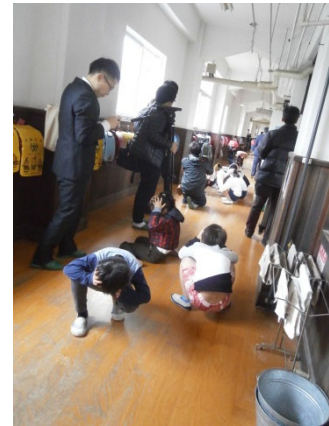


迷路で





自分たちで想定した避難訓練



ミッションXで

自分たちで何ができるかを考えた時に出てきたアイデアから、日曜日にミッションXを計画した。その時のミッションの一つであるクイズは5年生が考えた。

○ミッション

ハンターに見つからないように地図を手掛かりにいろいろな路地を巡り、そこに書かれているたくさんのミッションや、クイズ・暗号を解いて、ミッションをコンプリートしよう。ハンターに見つかり、魂を取られたグループは体育館でAEDを使って人を助け、魂をもらってミッションをクリアしよう。

○○ ミッションX③



小竹さんのお宅をノックし「おじいちゃん、おばあちゃん元気？」
と言う。
「元気だよ。」
と言う。握手
する。

○○ ミッションX⑥



この路地の名前が
付いたのはなぜか
さがぐれ。

○○ ミッションX④



ここは非常時の
とびらです。開け
て向こう側に行
指令にしたがえ
て

子どもたちは、路地の銘板を見れば、名前だけでなく、その路地が通り抜けられるかどうかができること、路地の突き当りに通り抜けられる



	ような扉がついているところがあること、A E Dの使い方・地域の集合場所・もしも地震が起こった時に代用できるものなど様々な問題を解くことで、楽しんで路地を巡ることができた。また、当日はハンターとしてP T Aの応援を公募し、見守り隊には保護者や地域の役員さんたちも参加してくださり、地域ぐるみで一大イベントとし総勢100人以上の参加をしていただいて町中で楽しんだ。保護者も子どもも、幼児まで楽しんで活動することができた。 ステージ⑤ 守れ、正親 ジュニア防災隊 発進 ○もしも、二日後に大地震があることがわかっているならばどうすればよいかを考える。 ○今までの学びと自分の成長を振り返り、これからの自分の生き方につなげていく。	
得られた成果 どのようなチャレンジをし、その結果何が得られたかを書いてください	自分たちが知ったこと、学んだこと、大切なことを伝えたいと、子どもたちの目の色が変わっていった。自分たちのしていることで社会に役立つこと、社会参画できている自己肯定感で子どもたちは生き生きと活動することができた。低学年や地域の方に楽しんでもらいながら、自分たちの学んできたことを伝えられるように授業中だけでなく休み時間も準備に取り組んでいた。ミッションXは保護者や地域のみんなを巻き込み、総勢100名以上の参加となった。まだ、説明段階であるものの「自分たちも知らないことがいっぱいあった。」「子供たちに教えてもらっている」「とても良い取り組みである。ぜひ続けてほしい。」と絶賛されている。	
どのくらい身につきましたか？ 該当しないものを削除し該当するものを残す	知識・技能 思考力・判断力・表現力 学びに向かう力・人間性	大いに 大いに 大いに
課題・苦労・工夫 やってみてわかった新たな課題、苦労した点、工夫した点などをこれから同様の実践を行うとする人が参考になるように書いてください	防災フェスタ・避難訓練は準備時間が学習の時間だけでは足りず、休み時間や放課後にも頑張っていた。それだけにやりがいもあったようである。ミッションXは初めての試みであるが保護者の協力も得て、安全に取り組みそうである。ただ、働き方改革が叫ばれている現在、教員に休日出勤をお願いしなければならないのが問題である。来年にはこのノ	



	ウハウをPTAやおやじの会に渡し、おやじの会が主催になってもらえるように支援できないかと算段している。
--	---

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ

1つの実践事例に複数の学びやメッセージがある場合には学びやメッセージの数だけ表をコピーして記入してください

伝えたい相手	正親の地域住民全体
伝えたい内容	自助・共助の重要性と地域で顔と顔が近づく組織づくりをしていって欲しい。

ここまで、実践したプランの数だけ記入する内容です

複数のプランを実践した場合には、ここまでの5つの表をコピーして記入してください

フォームへのご意見 (1団体あたり1回だけ記入する内容です)

★このフォームは書きやすかったですか？ わかりにくいところ、改善すべき点などあれば教えてください	プランと言うのをどのようにとらえればよいかがわからず、本校ではステージ一つずつに分けて記入しました。
---	--